

# セタシジミ種苗生産効率化研究

井戸本 純一

## ◆背景・目的

D型仔貝の量産放流事業が行われているセタシジミの種苗生産について、生産量の安定向上とさらなる効率化を実現するための取り組みを行った。

## ◆成果の内容・特徴

- 採卵槽 1 台あたりの収容卵数増大をめざした立体網状マットを用いる採卵方式の開発に引き続き取り組んだ。
- 採卵用水に脱塩素水道水を用いることによって生残率が向上する場合が認められ、湖水を塩素殺菌することによっても同様の効果がみられた。
- 卵の生残率はおもに孵化の直前から急激に低下することが判明した。
- 採卵から孵化までのあいだに採卵槽内を次亜塩素または二酸化塩素系殺菌剤で短時間殺菌することを試みたが、卵への悪影響は避けられなかった。
- 水深15m以上の漁場では8月に入っても未産卵の親貝が採捕でき、冷却水槽で蓄養した親貝にくらべて良好な卵を得ることができた。
- 単位親貝あたりの採卵量は昨年度同様過去にくらべて少なかった。
- 有効卵率のピークが昨年度とくらべても遅くかつ低く出現したことから、採捕前の親貝が成熟に変調をきたしていた可能性があり、原因としては冬から春にかけて例年よりも低かった湖水温の影響が疑われる。

## ◆成果の活用・留意点

- 孵化前の菌類増殖の抑制に焦点をあわせた技術開発を行う。
- 親貝の長期畜養や再使用も視野に入れた親貝の肥育技術に取り組む。

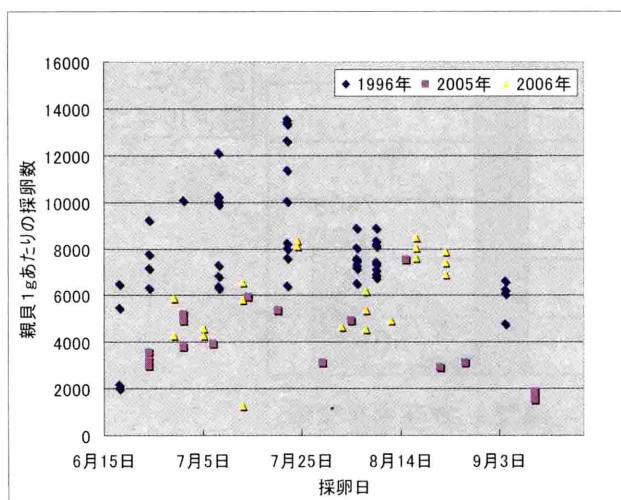


図1 採卵槽ごとの単位親貝あたり採卵量の推移. 2006年の8月17日以降は8月3日に水深15m以上から採捕した親貝.

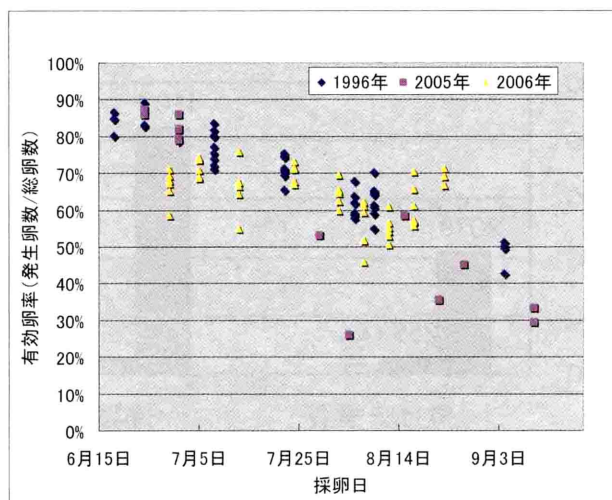


図2 採卵槽ごとの有効卵率の推移. 2006年の8月17日以降は8月3日に水深15m以上から採捕した親貝.